

(様式1)

1 自己評価及び外部評価結果

作成日 平成 29年 1月 24日

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	3491100289		
法人名	株式会社 アーバン・ケア		
事業所名	グループホーム「なでしこ」		
所在地	尾道市吉和町5 1 2 2 番地の1 (電話) 0848-25-2772		
自己評価作成日	平成28年12月18日	評価結果市町受理日	

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/34/index.php?action_kouhyou_detail_2016_022_kani=true&JigyosyoCd=3491100289-00&PrefCd=34&VersionCd=022
-------------	---

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	一般社団法人広島県シルバーサービス振興会
所在地	広島市南区皆実町一丁目6-29
訪問調査日	平成29年1月10日

【事業所が特に力を入れている点、アピールしたい点（事業所記入）】

「なでしこ」では、まずは入居者さんの出生から入居に至るまでの生活歴をご家族から伺って、そこからその方の“人間像”を察する努力をしています。その方の好みや嫌いな事、こだわる事、執着する事もその理由や原因は生活歴から伺い知る事ができるので、日常の接し方にも役立っています。また、敷地の一部を10区画に分けて貸し菜園とし、地域の希望者に使って頂いたり、近隣の同業施設と合同の避難訓練や入居者さん同士の交流、町内会にも加入して、お祭りなどの地域の行事にもお招きを頂けており、地域交流も順調に行えています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

施設敷地の入口に大きな掲示板が設置され、掲示板には施設の『なでしこだより』や行政の案内などが掲示されている。掲示板には時計が設置され、地域を散歩や仕事等で通られる方へ配慮されている。掲示板横に10区画に分けた菜園があり、地域の方へ安価で貸し出して喜ばれている。収穫時期にはお裾分けを頂くなど、地域交流の場となっている。管理者・職員は、基本理念の一部『地域の交流を通し、生き甲斐を持って生活できるよう支援』を目標に、一人ひとりの利用者の生活歴を重視し、その人らしい生き々とした生活を送って頂ける支援に向けて、取り組んでいる。事故防止のための拘束に係る家族同意書を求め対応した案件はなく、全職員が拘束することなく事故を防止する対策の検討を重ね、利用者の尊厳を重視した対応と支援が行なわれている。又、地域の別法人の事業所と連携した防災避難訓練の実施や、在籍看護師の他に看護師資格を持つ介護職員2名、介護福祉士等の有資格者が多数在籍しており、質の高い支援が行なわれている。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	入居者さん方が地域の住人として生活が出来るよう、基本理念のなかに地域交流に関する事柄を掲げて、職員にもその意義を喚起している。	基本理念を事業所の各所に掲示している。理念の中で『地域交流』を事業所重点目標に掲げ、事業所として積極的に地域行事に参加し又、事業所主催行事には地域住民の参加者も増えており、理念の実践に繋げている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	町内会に加入し、町内会長や民生委員をとおして、敬老会やお祭り等の地域行事のお誘いを受けたり、清掃活動にも職員が参加をしている。	町内会等から地域行事の案内や協力要請を受けて、地域清掃やとんど祭りの飾りつけ等の手伝いに積極的に参加している。敷地内の一角にある10区画に分けた菜園を、地域住民に貸し出している。地域住民の好意で、菜園横の花壇に季節ごとの花を植えていただいたり、地域の方との協力関係の良好さが窺える。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	敷地入口に掲示板型の大型看板を設置し、施設だよりや運営推進会議の議事録を掲示して、施設内の様子を紹介している。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	隔月ごとに開催している会議で、施設内の行事や事故・ヒヤリハットの発生状況を伝え、参加者からも意見や思いを伺っている。	運営推進会議では、事業所の運営状況について、利用者状況、事故報告、職員等の異動について説明し、毎回、介護に関わるミニ講座（夏の過ごし方食事編、軽減税率、介護とアロマ、若年性認知症公的援助制度）を開いている。会議は、参加者から積極的に厳しい意見も出され、その意見をサービス向上に活かしている。	毎回、定時（午前10：00～11：00）に開催のためか、決まった家族の参加になっている。日中は都合がつかない家族がおられるので、年に何回かは時間を調整し、より多くの家族からの意見が聴取できる運営推進会議になることを期待します。
5	4	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実績やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取組んでいる。	運営面での疑問や質問事項等あれば、逐一連絡、問い合わせを行っている。	運営推進会議に、毎回、地域包括支援センターの職員が参加しているので、その都度質問したり、市町の担当者への連絡、相談をしている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6		<p>○身体拘束をしないケアの実践</p> <p>代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。</p>	<p>玄関の施錠については、建物の構造上、見守りができない死角があるため、夜間や職員の目が行き届かない時は、やむなくロック式の施錠をしている。</p>	<p>玄関のオートロックについて問題意識を持ち、改善策を模索している。気候の良い時期は、状況により玄関を開いて対応している。利用者の転倒などの事故防止対策として、家族に拘束に係る同意を求めた案件はない。事業所は、基本的に安易に拘束具は使わず、どうすれば事故を未然に防げるかを、その都度会議で検討を重ね、身体拘束しないケアに取り組んでいる。</p>	
7		<p>○虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることのないよう注意を払い、防止に努めている。</p>	<p>職員による無意識な接し方や言動により、虐待につながるような場面があれば、その都度、指摘指導を行っているが、法令に基づいた教育は行っていない。</p>		
8		<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。</p>	<p>成年後見人等が、就任している入居者さんについて、折に触れて成年後見人のあり方や業務内容を説明している。</p>		
9		<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。</p>	<p>契約締結の以後でも、疑問や質問があればいつでも申し出て頂くよう説明したり、運営推進会議の場面でも伺うようにしている。</p>		
10	6	<p>○運営に関する利用者、家族等意見の反映</p> <p>利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。</p>	<p>口頭による受付以外にも、玄関に苦情箱を設置し、その内容を連絡ノートやスタッフミーティングでも討議をしている。</p>	<p>家族の面会時や運営推進会議（家族会）などで、家族の意見等を伺っている。常に利用者・家族が意見を言いやすい環境に配慮している。苦情や意見に対して、職員会議で検討し、運営改善に努めている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。</p>	<p>毎月のスタッフミーティングで、職員の意見や要望を聞くようにしている。</p>	<p>毎月の職員会議で、職員から意見を聴ける時間を設けている。勤務シフトの変更や業務に関する意見等があれば、即時に対応できるよう努めている。</p>	
12		<p>○就業環境の整備</p> <p>代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。</p>	<p>経験が浅い職員も、定時に帰宅できるよう業務内容を整理したり、やむなく残業が発生した時は、法に則した残業手当を支給している。</p>		
13		<p>○職員を育てる取組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。</p>	<p>施設外の研修の参加が行えておらず、今後の重要課題と認識している。</p>		
14		<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。</p>	<p>隣接する別法人「にしごこの家」の運推進会議に参加したり、合同避難訓練を行うなどの交流をしている。</p>		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。</p>	<p>入居時に「今一番困っている事は？」という質問をして、ご本人の潜在的な思いを聞き出す努力をしている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		<p>○初期に築く家族等との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。</p>	<p>入居時に、ご本人に関する事以外にも、直接ご家族の思いや疑問を聴き出す努力をしている。</p>		
17		<p>○初期対応の見極めと支援</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。</p>	<p>利用申し込みのご家族から、本人の様子を伺う事は勿論、ご本人にも直接お会いして、ご本人の口から困っている事を聞き出す努力をしている。</p>		
18		<p>○本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。</p>	<p>掃除や洗濯物干しなどの家事など、できる事をできる範囲で行ってもらっている。</p>		
19		<p>○本人を共に支えあう家族との関係</p> <p>職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。</p>	<p>ご家族の面会時間や外出・外泊は自由に行って頂いたり、本人の様子で伝えるべき事は、電話などで逐一報告をしている。</p>		
20	8	<p>○馴染みの人や場との関係継続の支援</p> <p>本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。</p>	<p>地元の方であれば、近隣の散歩などで、顔馴染みの人と会話をして頂いたりしている。</p>	<p>家族や友人、知人の面会が多く、面会時間も自由で、事業所に来やすい環境の設定に配慮している。散歩時に、近隣の方との挨拶や、菜園に来られる地域の方々と交流を通して、地域との関係が途切れないように努めている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	意思表示が困難で、周囲とのコミュニケーションが困難な方には、職員が誘導して、一緒にレクリエーションなどに参加してもらっている。		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	退居後のご家族が、弊施設の良い評判を近隣に伝えて下さっている。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	その日に着る服を選んで頂いたり、希望がある方には、ドライブなどの外出を楽しんでもらっている。	利用者が当日着る服を、本人に選択して貰い、日常生活の中で、本人の思いや意向を引き出す細かな配慮がなされている。聴き取り困難な場合は、利用時に家族から入手した生活歴・趣味・嗜好についての情報を基に、家族と相談しながら把握に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	入居時に、ご家族から本人の出生から現在までの生活歴を、書面に書き込んで頂いたり、入居後も本人から伺っている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	毎日、個人ごとに、一日の様子を時系列に書き込んだ生活歴を記録し、皆が閲覧、把握できるようにしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	<p>○チームでつくる介護計画とモニタリング</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。</p>	<p>定期的なケア会議のほか、毎月1度のケアカンファレンスで個人ごとに検討、確認している。</p>	<p>利用者ごとに担当職員制となっており、定期的なアセスメントを行い、毎月1回のケアカンファレンスで見直しを行っている。仮介護計画書作成後、家族への説明と話し合いの後、介護計画を作成している。6ヵ月ごとに見直しを行っているが、状況変化により、適宜更新している。</p>	
27		<p>○個別の記録と実践への反映</p> <p>日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。</p>	<p>先記述したとおり、時系列に列挙した、個人ごとの生活記録を、欠かさずつけている。</p>		
28		<p>○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化</p> <p>本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。</p>	<p>運営責任者と検討しながら、必要に応じて医療機関等と連携を図るよう努めている。</p>		
29		<p>○地域資源との協働</p> <p>一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。</p>	<p>施設が地域の町内会に属し、敬老会やお祭り等の地域行事に参加をして頂いている。</p>		
30	11	<p>○かかりつけ医の受診診断</p> <p>受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。</p>	<p>入居時に、本人やご家族が希望される医療機関を主治医とするか否か、希望を伺っている。</p>	<p>利用時に利用者・家族が希望する病院を主治医とすることを基本とし、それ以外の方は、事業所の提携医が主治医となっている。通院は、家族同行を基本とし、定期的に主治医が往診するケースが多くなっている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		<p>○看護職員との協働</p> <p>介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。</p>	定期的に出勤する看護職に、日頃の様子を口頭や書面で伝えている。		
32		<p>○入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。</p>	入居時に主治医の変更があれば、前主治医から新主治医への連絡の橋渡しをしている。		
33	12	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。</p>	入居時に弊施設の「看取り」の方針を伝えるほか、その時が予測される早い段階で、主治医を交えた検討をしている。	利用時に、重度化、終末期に向けた指針について説明し、早い段階で主治医を含めた関係者との話し合いを行っている。事業所として出来る事、出来ない事を十分説明している。	
34		<p>○急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。</p>	緊急時のマニュアルを整備したり、夜間の緊急対応の当番を決めている。		
35	13	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。</p>	近隣の同業施設と連携をとり、お互いの緊急避難や防災対策の連携をとっている。	以前より、防災避難訓練時に連携している近隣の別法人事業所と避難訓練を実施している。地震による施設被害及び火災による被害を想定し、大がかりに行われている。非常時の飲食料は、常時3日分位を備蓄し、今後は、防災用品（コンロや簡易トイレ）等の準備を検討している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	親しみを込めた言葉遣いと、馴れ々しい言葉遣いとの違いを、注意喚起している。	声掛けの言葉使いなど、日常生活の中でありがちな、馴れ々しい口調などがあつた場合は、その都度、管理者、リーダーが職員に注意喚起し、利用者の誇りを損なわないよう努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	日常の会話を通して、本人の要望を察するよう心掛けている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	集団生活により、ある程度の日課の決事は致し方ないが、できるだけ本人のペースに合わせるよう心掛けている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	着衣の清潔保持や、着合わせを整えるよう心掛けている。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	個人の好みに合わせてメニューを変えたり、調理の下ごしらえや下膳なども、可能な方には行ってもらっている。	利用者の希望を考慮したメニューとなっている。お洒落な小鉢や食器で副食の品数も多く、『美味しい』と利用者及び家族にも好評である。又、出来る範囲で調理の手伝いや食器洗いなどは、利用者の方にして頂いている。管理者は、食事は日常の楽しみの一つと考え、食材には多くの予算を取っている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		<p>○栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。</p>	<p>食事や水分の摂取量については、記録を残しており、全職員が把握できるようにしている。</p>		
42		<p>○口腔内の清潔保持</p> <p>口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。</p>	<p>毎食後の歯磨きを習慣づけ、必要に応じて歯科医の受診や往診を受けている。</p>		
43	16	<p>○排泄の自立支援</p> <p>排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。</p>	<p>定期的なトイレの誘導のほか、日ごろの排泄パターンの把握に努めている。</p>	<p>利用時から排泄パターンを把握し、利用者ごとの排泄リズムで声掛けを行っている。</p>	
44		<p>○便秘の予防と対応</p> <p>便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。</p>	<p>まずは水分不足に陥らないようにしている事に加え、必要に応じて主治医に相談して、調整剤や下剤類を処方して頂いている。</p>		
45	17	<p>○入浴を楽しむことができる支援</p> <p>一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている。</p>	<p>全員が均等に入浴ができるよう、ある程度の計画を立てるほか、清潔維持に必要な状況であれば、随時に入浴をしてもらっている。</p>	<p>週2回の入浴が基本であるが、必要に応じて、それ以外でも入浴できる。職員は入浴時に、利用者の身体状況のチェックにも気を配り、軽度の帯状疱疹を発見し、早期治療で重症化を防げた事例もある。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		<p>○安眠や休息の支援</p> <p>一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。</p>	<p>リビングにはテーブル席のほか、全員が座ることができる数のソファ席も確保している。</p>		
47		<p>○服薬支援</p> <p>一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。</p>	<p>個人ごとの医療記録簿を別途用意しており、治療内容や処方内容に変更があれば、全職員が閲覧できるようにしている。</p>		
48		<p>○役割、楽しみごとの支援</p> <p>張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。</p>	<p>生活歴をもとに、趣味などを察して、日常的に楽しんでもらえるよう心掛けている。</p>		
49	18	<p>○日常的な外出支援</p> <p>一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。</p>	<p>希望があれば、近隣商店への買い物や飲食店で喫茶を楽しんでもらえるよう、外出支援を心掛けている。</p>	<p>近隣の散歩やスーパーへ買い物に出掛けたり、利用者の希望によりファミリーレストラン等でお茶を楽しんだりしている。出来る限り利用者の希望に沿った外出支援ができるよう、努めている。</p>	
50		<p>○お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。</p>	<p>希望がある方には、ご家族の了承のもと、幾らかの金銭を個人管理で所持してもらっている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		<p>○電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。</p>	<p>希望がある方には、電話を使ってもらったり、遠方のご家族からある電話連絡も取り次いでいる。</p>		
52	19	<p>○居心地の良い共用空間づくり</p> <p>共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。</p>	<p>移動に支障がないよう、不要物は撤去したり、室温や照明の調整を行っている。</p>	<p>共有空間のリビングには、バリアフリーのウッドデッキがあり、広々とした空間となっている。利用者の動線を考え、通路は幅広く、テーブルや椅子等が配置されている。</p>	
53		<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。</p>	<p>孤立しないよう、随時、席並びを工夫したり、自由に立ち座りできるソファも用意している。</p>		
54	20	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。</p>	<p>自宅から馴染みの物を自由に持ち込んでもらったり、小物を入れる箱には千代紙を貼って、見栄えを良くする工夫をしている。また、ご家族と一緒に撮った写真を掲示している。</p>	<p>各居室には、常設の時代箆笥や持込み自由な利用者の馴染みのものが置かれている。利用者、家族が持参した写真を拡大パネルにして、利用者が落ち着ける居室になるよう配慮されている。</p>	
55		<p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。</p>	<p>使い良い整理棚や衣類掛け等を自作して、“できる動作”を絶やささないよう心掛けている。</p>		

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。	●	①ほぼ全ての利用者の ②利用者の3分の2くらいの ③利用者の3分の1くらいの ④ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	●	①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	●	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
59		●	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
60	利用者は、戸外への行きたいところへ出かけている	●	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	●	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	●	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	●	①ほぼ全ての家族と ②家族の3分の2くらいと ③家族の3分の1くらいと ④ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	●	①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係やとのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている	●	①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない
66	職員は、生き活きと働けている	●	①ほぼ全ての職員が ②職員の3分の2くらいが ③職員の3分の1くらいが ④ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	●	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	●	①ほぼ全ての家族等が ②家族等の3分の2くらいが ③家族等の3分の1くらいが ④ほとんどできていない

(様式2)

2 目標達成計画

事業所名 グループホームなでしこ

作成日 平成29年3月9日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点, 課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	13	管理者以外、施設外研修に参加できていない (前回からの継続)	研修参加の機会を増やす	順次、各職員の経験・能力に見合った社外研修の参加を促す	1年間
2	11	日々のケアがマンネリ化している	既存のケアを惰性的に繰り返さない	ユニットごとに目標を掲げる	1年間
3					
4					
5					
6					
7					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。